



図1 アメリカで最初の女性医師。Dr. Elizabeth Blackwell (1821~1910年)

フェローシップを終えてスタッフとして今の病院 (Mount Sinai Beth Israel) に残った初めの頃、よく若手の女医仲間が集まっていたのですが、同僚らはしばしば循環器グループのリーダーたちが基本的に男性であり、

まだまだ循環器科は「ボーイズクラブ」

で男性が優遇されていると批判していました。私自身は比較的そういうことに鈍感で、循環器のインターベンションというある意味花形の仕事をしていることもあり、上司にも恵まれ、あまり性別は気にせずやってきました。それと女であること以上に、まず外国人であり「ビザの問題」のほうがよくハンドになっていたこともあり、そういう捉え方はしていなかったのです。でも最近、かつての同僚らがいっていた点にも一理あると思うようになりました。

循環器インターベンションの後輩(教え子)のマディーア、誰にでも好かれる性格の優秀な医師ですが、フェローシップを修了して、就職先を探しているときに、同じポジションを面接した同期の男性医師の給料の提示額がずいぶん違うこ

とを知ったそうです。面接で「妊娠してもらっては困る」と示唆されたともいっていました。ただ、そんな彼女も就職してからは評価がかなり高く、先日も大学病院に引き抜かれそうになり、相談してきました。

また、前述(7章, 8章)の後輩ニルマールからは、前にいた病院のカテ室のアテンディングで、「女のフェローは私のカテに入らないで」と明言する人がいたとの話を聞きました。そこまであからさまな差別的言動はアメリカでは公的には許されないのです。そんなときは Human Resource (人事部) に訴えることができます。現在アメリカでは、2年前に起こった #Me too 運動や Time's Up 運動(図2)にみられるように、男女の不平等に関しては少し敏感になっています。2019年にはニューヨークの Mount Sinai 病院にて、女性医師のグループが女性だということで、差別的な扱いを受けた件に対して裁判が起こっています。ただ、公な問題にするには大変な労力がかかるので、そこまではやらない人がほとんどではないかと思います。



図2 「Time's Up (時間切れ)」というセクシャル・ハラスメント撲滅を訴える運動への賛意。セクハラがまかり通っていた時代やセクハラ被害に遭った女性が口を閉ざす時代が終わったという意味。